

補助事業概要の広報資料

補助事業番号 23-4-012

補助事業名 平成23年度(復興支援)被災者に対するカウンセリング、調査活動補助事業

補助事業者名 学校法人 東北公益文科大学

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

岩手県の沿岸部地域における高齢者ケア施設(19ヶ所の小規模多機能型居宅介護事業所、38ヶ所のグループホーム)の大震災における被災状況を確認するとともに、高齢者およびケアワーカーをはじめとする事業所職員の心理的ストレス状況を把握し、カウンセリング的なアプローチによる職員のストレスの緩和を図る。57ヶ所の高齢者ケア事業所が憩いの場や入浴設備などの設備を地域に開放することによる高齢者へのサービスの充実を支援すると共に、地域と事業所が共同で震災復興に取り組むことを目的とするシンポジウムを開催する。

(2) 実施内容

平成23年7月から8月にかけて岩手県沿岸部の57箇所の小規模高齢者ケア事業所の高齢者と職員の被害状況及びストレス状況を確認するため、アンケート調査を実施(回収率56.1%)した。合わせて、震災の影響が少ない他の地域とストレス状況を比較検討するため、熊本市の小規模高齢者ケア事業所60箇所を対象に、被災地で行ったものと同じアンケート調査を実施(回収率78.3%)した。これらの結果を比較検討することにより、両地域のケアワーカーのストレス状況に明確な差異が生じていることを明らかにした。

次に、上記のアンケート調査の結果、ストレスの高い職員が多いと判定されたケア事業所の職員を対象に、ナラティブカウンセリングの手法を活用しながらインタビューを行った。この取り組みの結果、個人の被災体験以外に、地域の被災状況、事業所におけるストレスマネジメントの体制が職員のストレス状況に大きく影響していることが明らかになった。また、ストレスに関するインタビューに合わせて、ケア事業所と地域住民との交流及び相互サポートの状況についての情報収集も行った。

これらの成果をふまえ、平成24年3月8日、岩手県遠野市「あえりあ遠野」において、シンポジウムを開催した。岩手県内の高齢者ケアサービスに関わるケアワーカー及び事業所の関係者約60名が参加し、それまでの調査研究の取り組みの成果を確認するとともに、ケアワーカーのストレス対応、及びケア事業所と地域住民との相互サポートのあり方等に関する今後の課題についての討論を行った。

以上の取り組みの成果について、行政の関係機関、岩手県社会福祉協議会他の関係団体へ報告を行った。

(別紙5)



研究報告シンポジウム

2. 予想される事業実施効果

この度の調査活動により高齢者ケア施設利用者及び職員のストレス状況、震災復興に関連する地域との連携状況について今後の適確な対応策について明らかにすることができた。また、職場における心理教育の重要性や、地域におけるレジリエンス（地域の生活文化に根ざした回復力）を高めるためのソーシャルサポートの重要性を強調していく必要があることが裏付けられた。これらの蓄積したデータは今後震災時の対応に活かされることが予想される。

3. 本事業により作成した印刷物等

- (1) 『平成23年度（復興支援）被災者に対するカウンセリング調査活動事業報告書』
- (2) シンポジウム報告書『ケアを支える心のつながり』



4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名：学校法人東北公益文科大学（ガッコウホウジントウホクコウエキブンカダイガク）

住所：997-0035

山形県鶴岡市馬場町 14-1

代表者：理事長 新田 嘉一（リジチョウ ニッタ カイチ）

担当部署：研究支援・国際交流室（ケンキュウシエン・コクサイコウリュウシツ）

担当者名：研究支援・国際交流室長 白田 裕司（ケンキュウシエン・コクサイコウリュウシツ
チョウ シラタ ユウジ）

(別紙5)

電話番号 : 0235-29-0555

F A X : 0235-29-0556

E-mail : gs@koeki-u.ac.jp

U R L : <http://iaks.koeki-u.ac.jp/>